

連合研究科共同研究プロジェクト研究成果報告書

プロジェクトの名称	先端課題解決に向かう実践的教育研究とそれに基づく研究リカレント化モデルの可能性		
研究期間	令和2年4月1日～令和5年3月31日	プロジェクト記号	Y
チーム構成員の氏名・職名等・所属（配属）大学（◎：チームリーダー）			
◎ 溝邊 和成（教授・兵庫教育大学）		水落 芳明（教授・上越教育大学）	
高橋 敏之（教授・岡山大学）		田村 隆宏（教授・鳴門教育大学）	
西山 修（教授・岡山大学）		久我 直人（教授・鳴門教育大学）	
松本 剛（教授・兵庫教育大学）			
プロジェクト全体の報告			
本研究では、「先端課題解決研究に関わる実践的教育研究者（現職教員・現職大学教員）育成のための高等教育研究リカレントモデルの可能性を探る」ことを目的とした（2020年）。それに対して次のような課題を設定し、研究を進めた。（兵庫教育大学「ヒトを対象とする研究に関する倫理審査委員会」承認：承認番号第2021-20号） 1 「連合大学院並びに先端課題実践開発講座設立の意義とその特徴」を関連資料からの分析で捉える（2020年）。 2 アメリカにおける専門職博士課程 Ed.D.の特徴を対象化することで、日本の「教育系博士課程におけるリカレント教育」への示唆を探る（2021年）。 3 先端課題実践開発講座に所属する（した）教員・学生に対して、本講座における指導や学びに関する意識調査（質問紙調査、面接調査）を実施し、その量的分析と質的分析の結果を導き出す（2022年）。 4 上記の成果をもとに、先端課題解決研究に関わる院生（現職教員・現職大学教員）の実践的教育研究者育成のためのリカレントモデルの提案を試みる（2022年）。 以上の研究のまとめ（本研究の全体像）を書籍として上梓した（2023年3月）。また、関係者招聘による記念講演と研究報告の会を実施した（2023年3月25日）。  （書籍の表紙）  （報告会パンフレット） 以下は、書籍の章立て等を示したものである（主たる研究分担者名付記）。 - 第1章 （溝邊和成）研究の概要 1 研究目的、2 研究組織、3 倫理的配慮、4 研究の背景、5 研究の内容と方法 - 第2章 （久我直人）教育系博士課程におけるリカレント教育の構築と課題 1 国際比較に基づく日本の教育系博士課程の実態と課題 2 アメリカの専門職学位Ed.D.の歴史的経緯 3 教育系博士課程における求められるリカレント・モデルの構築の意義と課題の整理 4 まとめ - 第3章 （松本 剛）連合大学院博士課程の運営 1 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科の組織と運営 2 連合大学院の現状とリカレント教育 3 先端課題実践開発専攻の設置 - 第4章 （高橋敏之）先端課題実践開発連合講座の設置の趣旨と博士論文題目への着目 1 博士課程におけるリカレント教育と本研究の目的 2 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科の設立とその背景 3 先端課題実践開発専攻の設置の趣旨と教育課程編成の特色 4 先端課題実践会厚専攻の学位論文の研究動向 5 先端課題実践開発専攻の今後の在り方とリカレント教育に必要な視点 - 第5章 （田村隆宏）教育系博士課程における教員の研究指導及び学生の研究活動に関する意識 ―先端課題実践開発連合講座所属の教員・修了生・在学生対象の調査から― 1 教員の意識 2 学生の意識 3 総合考察 - 第6章 （西山 修）教育系博士課程学生の語りから捉える研究意識の変容過程 1 問題 2 方法 3 結果と考察 - 第7章 （若田美香）教育系博士課程の指導者の語りから捉える学生への指導意識 1 問題 2 方法 3 結果と考察 - 第8章 （水落芳明）博士課程修了生による座談会 1 学位を取得してよかったことは？ 2 学位取得で大変だったことは？ 3 博士課程入学前・在学中・終了後の心境や変化は？ 4 博士課程の充実に求めたいことは？ 5 博士課程で得られたものとは？ 6 博士課程で学ぶ意味とは？ - 第9章 （溝邊和成）連合大学院リカレント・モデルのアイデア 1 成果と課題の整理1：大学院博士課程 2 成果と課題の整理2：教員と学生の意識 3 リカレント・モデルの提案 4 おわりに			

（注）氏名欄は適宜増減してください。